

鹿児島大学 学術情報基盤センター

CENTER NEWS

第1号

2003年5月

～ 目次 ～

- ・学術情報基盤センターの設置について …… 1
- ・センター長あいさつ …… 1
- ・教官紹介 …… 2
- ・お知らせ …… 3

● 学術情報基盤センターの設置について

鹿児島大学学術情報基盤センターは、電子計算機室（1965年12月）、情報処理センター（1987年12月）の時代を経て、1995年4月に総合情報処理センターとなった組織を母体として、2003年4月に発足した学内共同教育研究施設です。これまでの総合情報処理センターは、計算機システムの教育・研究利用への支援及び学内情報ネットワークの運用管理を中心として担ってきました。近年、情報メディア利用技術の高度化が、21世紀の高度情報化社会に向けて劇的な発展を見せており、教育・研究への情報通信技術の活用に関する研究、学術情報コンテンツの作成、蓄積、公開技術の研究開発など、学術情報基盤の研究開発体制の整備が鹿児島大学において極めて重要な課題になってきました。このような状況の中で、2003年4月に情報通信基盤研究部門、メディア教育研究部門、学術情報資源研究部門の3研究部門を持つ学術情報基盤センターへと発展的に改組されました。今後、センターは学内の情報関連組織と連携を強化し、研究開発能力を飛躍的に高め、学内外の情報基盤整備に関して中核的な役割を果たしていきます。

● センター長あいさつ

<センター長 村島定行(工学部情報工学科教授)>

教育と研究を含むすべての活動について、情報通信技術をいかに有効に使いこなすかは、大学の活力を高めるうえで死活的に重要な要素になっています。教育の質の向上、大学の知的創造、情報発信、情報収集の活動へ情報技術を応用することを、個人のレベルで努力しても限界があるのは明らかであります。大学が組織的に情報基盤を整備し、大学の構成員のそれぞれの生産性を最大限に発揮できるような環境を整備することが求められています。情報基盤を構成する要素は従来のコンピュータそのものから、安全で快適なネットワークを提供し、維持する技術、遠隔授業や電子授業など教育への応用、図書館や総合研究博物館などをはじめとするさまざまな学術情報を電子化する技術、事務情報や学務情報システムの安定的で効率的な構築技術など多岐にわたっています。またこれらの高度情報化を推進する体制にも問題があることは多くの人の指摘するところでもあります。

鹿児島大学・学術情報基盤センターはこうした大学の情報基盤整備に対する要求に対応して、総合情報処理センターを改組し、2003年4月に発足いたしました。情報通信資源研究部門、メディア教育研究部門、学術情報資源研究部門の3研究部門が設けられ、6名の専任教官を擁するにいたりました。

安全で快適なネットワーク環境を安定的に提供し、メディア教育、学術情報資源等の高度情報化を実現するにはまだ多くの研究が必要です。専任教官を中心として学内の教官との協力体勢を組み、大学の高度情報化の技術を開発し、大学と社会に貢献することが重要な役割です。

大きな役割と期待を考えますと現在の規模は十分とは言えませんが鹿児島大学の研究と教育の高度化或いは地域社会の発展のためにあらゆる活動を行います。

関係者の皆様の温かいご支援とご協力をお願いします。

● 教官紹介

<情報通信基盤研究部門 助教授 升屋正人>

総合情報処理センターで3年間、鹿児島大学の情報通信基盤(パソコン端末・サーバ・ネットワーク)の整備と運用を担当してきました。新たに設置された学術情報基盤センターでは部門の教授とともにキャンパス情報ネットワークを担当するほか、IT分野の研究開発が正式な業務となりました。ネットワークに関連したサービスをさらに充実させるとともに、Web・PC クラスタ・ネットワークなどの技術を用いて行ってきたバイオ・コンピューティング分野の研究をさらに進めたいと考えています。

<メディア教育研究部門 教授 鍵山茂徳>

情報技術を利用して教育の「高度化」を進めていく目的でメディア教育研究部門が設置されました。最近、「eラーニング」の活用が大学を中心として急速に広がっており、その教育に対する効果が注目を集めています。私たちの研究部門でも、早急に必要な機材やソフトをそろえ、夏ころまでにはサービスを開始する予定です。ぜひ、興味をお持ちの方はご連絡下さい。

<メディア教育研究部門 助手 青木謙二>

学術情報基盤センターの専任教官として工学部情報工学科より異動となりました。センターでは「メディア教育研究部門」に属し、メディアを用いた教育・研究に携わります。センターの教育用計算機システムを使った授業や公開講座などに関わりますので学生・教職員の皆さんと接する機会も多いと思います。また、情報通信技術を活かした新しいメディア教育を学術情報基盤センターから発信出来ればと考えております。学術情報基盤センターが学内だけでなく、鹿児島の情報社会の基盤となれるよう、多くの方々の御協力をよろしくお願い致します。

<学術情報資源研究部門 教授 森邦彦>

この度、旧総合情報処理センターを改組し新たに設置された学術情報基盤センターに、工学部情報工学科より異動しました。私が所属する学術情報資源研究部門は、主にデータベース技術とネットワーク技術を活用して、大学内の様々な学術情報を大学内外に提供することを目的とする、と理解しています。これからの大学が取り組むべき課題として非常に重要であり、解決しなければならない問題が山積していると認識しております。どこまでやれるか、はなはだ心もとないところではありますが、身を引き締めて取り組む覚悟です。何とぞ宜しくお願い申し上げます。

< 学術情報資源研究部門 助教授 佐野英樹 >

この度、理学部数理情報科学科から学術情報基盤センターに異動になりました。この新しいセンターは、教官数が増え、研究開発にも力を入れていくというところに特徴があります。私自身、決して情報技術の専門家ではありませんが、これからは新しい分野の研究開発にも積極的に取り組んでいこうと大いに楽しみにしています。また、今後は他の学内共同教育研究施設等と関わる仕事がたくさん出てくることと思いますが、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

● お知らせ

■ ブロードバンド体験コーナーオープン【情報通信基盤研究部門】

2003年4月1日(火)、一般家庭向けに提供されているブロードバンド回線を体験することのできる【ブロードバンド体験コーナー】を東側玄関ロビーに開設しました。コーナーには、BフレッツおよびフレッツADSLモア回線に接続したパソコンが設置されており、センターの利用時間内であれば、自由に高速インターネットを体験することができます。端末室のパソコンとは異なり、教育研究目的に限定するといった利用上の制限はありません。端末室でのレポート作成に疲れたとき、ネットゲームや音楽・映像サイトで気分転換するのもよいでしょう。ただし、できるだけ多くの方にブロードバンドに触れていただくため、利用時間は最長60分程度をメドにさせていただきます。また、名誉毀損となる掲示板書き込みや不正コピーなどの犯罪行為は当然禁止されています。

コーナーにはBフレッツやフレッツADSLのパンフレットや、これらの回線に対応しているプロバイダのパンフレット等も置いてありますので、自宅にブロードバンド回線を導入する場合の参考にしてください。

■ 代替回線経由サービス開始【情報通信基盤研究部門】

2003年4月11日(金)、SINET障害発生時でも代替回線を経由することでインターネット向け通信(WWW、FTP、メール送信)が可能なサービスを開始しました。本サービスはADSL回線経由で学外との通信を行うプロキシ(代理)サーバーを学術情報基盤センター内に設置することで実現しています。プロキシサーバーはproxy.cc.kagoshima-u.ac.jp、WWW及びFTPのポート番号は【3128】、メール送信のポート番号は【3125】です。Internet Explorerの場合は以下の手順でプロキシサーバーの設定を行うことで本サービスの利用ができます。

1. [ツール]メニュー [インターネットオプション] [接続] [LANの設定]を選択する
2. 「LANにプロキシサーバーを使用する」をチェックする
3. 「ローカルアドレスにはプロキシサーバーを使用しない」をチェックする
4. [詳細設定]をクリックする
5. [HTTP]の[使用するプロキシのアドレス]に「proxy.cc.kagoshima-u.ac.jp」と入力する
6. ポートに「3128」と入力する
7. 「すべてのプロトコルに同じプロキシサーバーを使用する」をチェックする
8. 例外に「*.kagoshima-u.ac.jp」と入力する
9. [OK]をクリック(3回)して設定を終了する

なお、SINET障害時には学外から学内に向けた通信が停止することになりますので、学外から学内

のホームページの閲覧はできず、学外からのメールは受信できません。本サービスは SINET に障害が発生した場合に学内から学外への通信の接続性を確保するものです。

■ ウイルス検査について【情報通信基盤研究部門・情報セキュリティ対策支援室】

一部の学部・学科をのぞき、学外とのメール送受信にあたり、ウイルスの検査を行っています。添付ファイルにウイルスが検出された場合には、その添付ファイルが削除され「元のファイル名.htm」という HTML ファイルに置換されて宛先に届きます。置換された HTML ファイルには「VIRUS INFECTION ALERT」で始まる英文のメッセージが記述されています。このようなメールが届いた場合、ウイルスは既に削除されておりますが、不必要なメールですので削除して構いません。置換された HTML ファイルが「ATTACHMENT REMOVAL ALERT」で始まる英文のメッセージの場合は、分割送信された添付ファイルをウイルス検査サーバが検査不可能なため自動的に削除したものです。添付ファイルのやりとりを目的としたメールであった場合は、お手数ですが送信元に対し添付ファイルの分割なしでの再送をご依頼ください。

なお、情報セキュリティに関する情報提供と、サイトライセンスを取得しているウイルス対策ソフトウェアの配布を <http://sec.cc.kagoshima-u.ac.jp/>で行っています。学内でのウイルス感染・不正アクセスの被害は後を絶ちません。パソコンにはウイルス対策ソフトウェアを必ず導入し、情報セキュリティに関する情報にご注意ください。

■ 端末室の自由利用について【メディア教育研究部門】

学術情報基盤センターでは学生・教職員の自習利用の為に端末室(センター、共通教育棟、附属図書館、医学部保健学科教育棟内)を開放しております。授業等のない時間帯は自由に利用することが出来ます。また、センター内第1 端末室、第4 端末室においては下記のとおり時間外開放、土日祝日開放も行っております。たくさんの方のご利用をお待ちしております。詳しい利用時間につきましては学術情報基盤センター玄関の掲示板、ホームページ(<http://w3.cc.kagoshima-u.ac.jp/>)をご覧ください。事務室(内線 7474)までお問い合わせください。

| | 時間内 (8:30 ~ 17:00) | 時間外 (17:00 ~ 22:00) | 土日祝日開放 (10:00 ~ 17:00) |
|---------|-----------------------|------------------------|---------------------------|
| 第1 端末室 | | | |
| 第2 端末室 | | × | × |
| 第3 端末室 | | × | × |
| 第4 端末室 | | | |
| オープン利用室 | | × | × |

鹿児島大学学術情報基盤センター

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35 (電話) 事務室 285-7474

(ホームページ) <http://w3.cc.kagoshima-u.ac.jp/>
